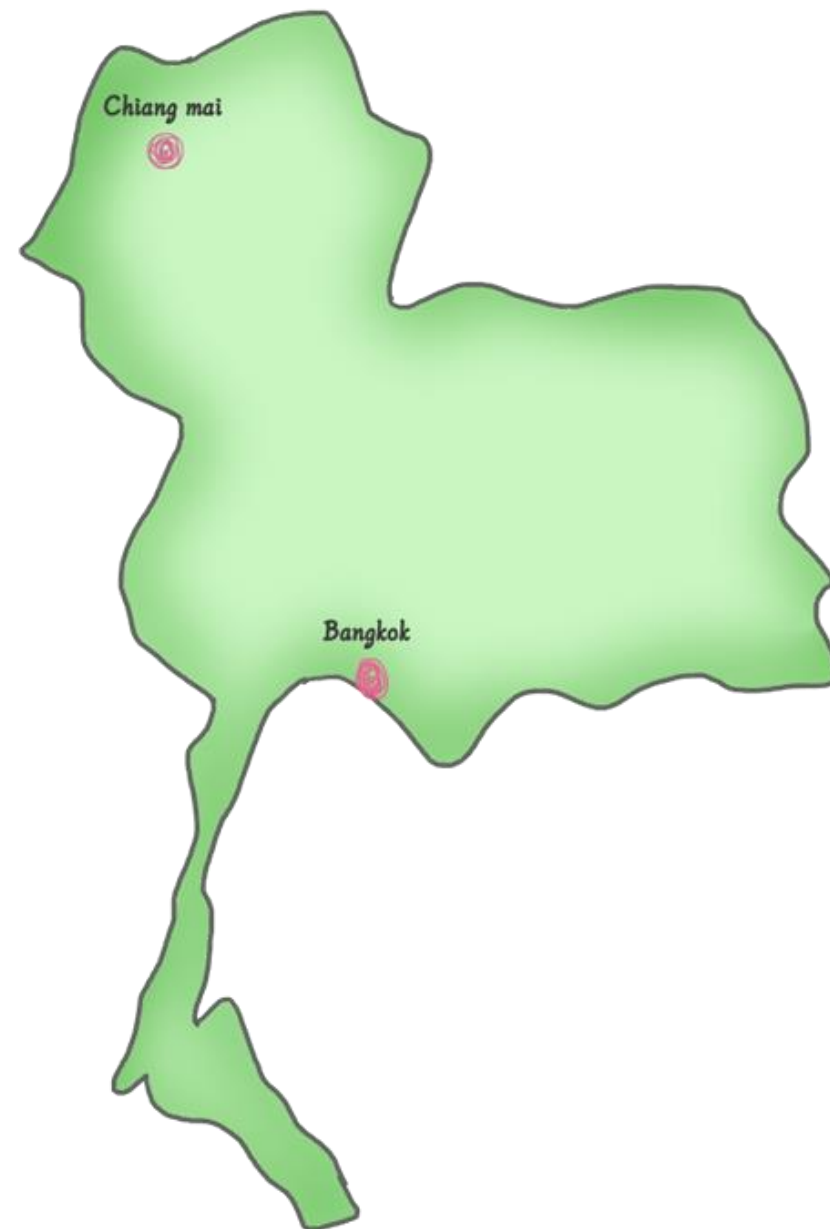


海外博物館研修 in タイ王国



2018.08.09~2018.08.21



日程

1	8/09	ナイトバザール
2	8/10	チェンマイ市立芸術文化センター チェンマイ市立歴史センター ランナー民俗博物館 ワット・ドイステープ Huaykeaw Waterfull
3	8/11	チェンマイ国立博物館 クロロットマーケット サタデーマーケット
4	8/12	タイ・ルー ワット・ロンメン ワット・ゲートカラム
5	8/13	首長族民族村 仏法センター
6	8/14	仏法センター ●落花生植え手伝い ●寺院巡り ●交流

7	8/15	仏法センター ●タイ・ミャンマー国境朝市 ●ワット・ファ・ウィアング・イン ●機織工房
8	8/16	チェンマイ大学伝統家屋博物館
9	8/17	バンコク国立博物館 王宮
10	8/18	スネークファーム ムアンボーラン
11	8/19	アユタヤ 日本人村 Wat Yaichaimong Khol Wat Maha That (顔のやつ) 王宮跡 (Wat Phrasisanphet) エレファントビレッジ
12	8/20	シリントーン人類学センター シリラート博物館 チャイナタウン

1 日 目 担当：保科柚季

日 程

午前

- ・ 中部国際空港

午後

- ・ バンコク乗り継ぎでチェンマイ国際空港へ
- ・ ナイトバザール

ナイトバザール (Night Bazaar)

チャンクラン通りに沿った路面店と、周辺の3つのエリアで構成されています。

毎日開催されるマーケットで、お土産屋さんや飲食店なども豊富にありました。

近くにはホテルも多く、観光客がたくさん訪れるエリアです。



ナイトバザール (Night Bazaar)

1日目の夕飯は屋台がたくさん集まった
フードコートでそれぞれ好きなもの
を選んで食べました。



2日目

担当：安江 俊良

日程

午前

- ・ チェンマイ市立芸術文化センター
- ・ チェンマイ市立歴史センター
- ・ ランナー民俗博物館

午後

- ・ ワット・ドイステーブ
- ・ Huaykeaw Waterfull

チェンマイ市立芸術文化センター (Chiang Mai City Arts & Cultural Center)

- 入り口にチェンマイを作った三体の王子の銅像が設置されています。
- 現在のチェンマイと過去のチェンマイの歴史について紹介しています。
- ジオラマ、模型、レプリカ、映像など様々な手法で展示されていました。





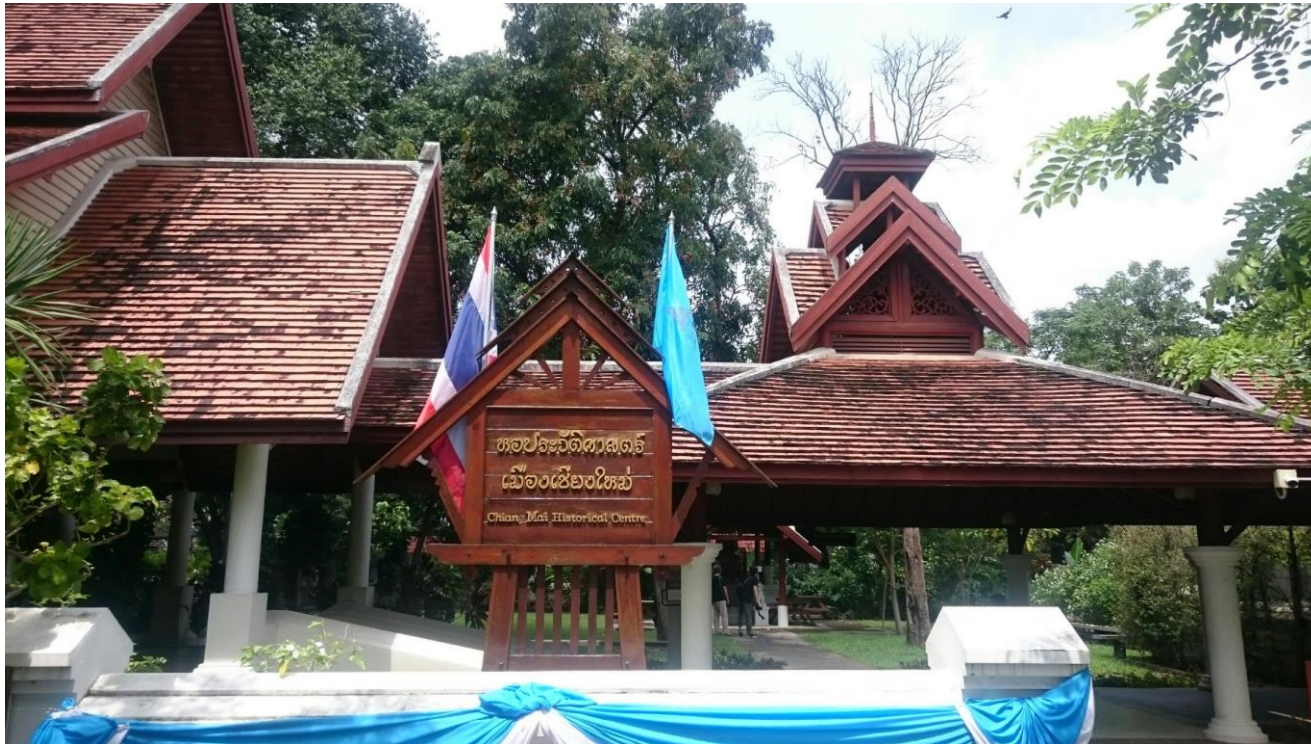
学芸員さんのお話を実際に聞いてチェンマイの歴史について学びました。
主に展示室やチェンマイの成立について説明していただきました。

生活文化をジオラマ展示で、
わかりやすく説明をしています。



チェンマイ市立歴史センター (Chiang Mai Historical Center)

- チェンマイの発展の歴史や古代遺跡などがある博物館。
- チェンマイに関する多くの情報を提供しています。
- レプリカが多く使用されていました。



- 地下にある本物の古代寺院遺跡



この博物館の地下にある考古遺跡も見学しました。

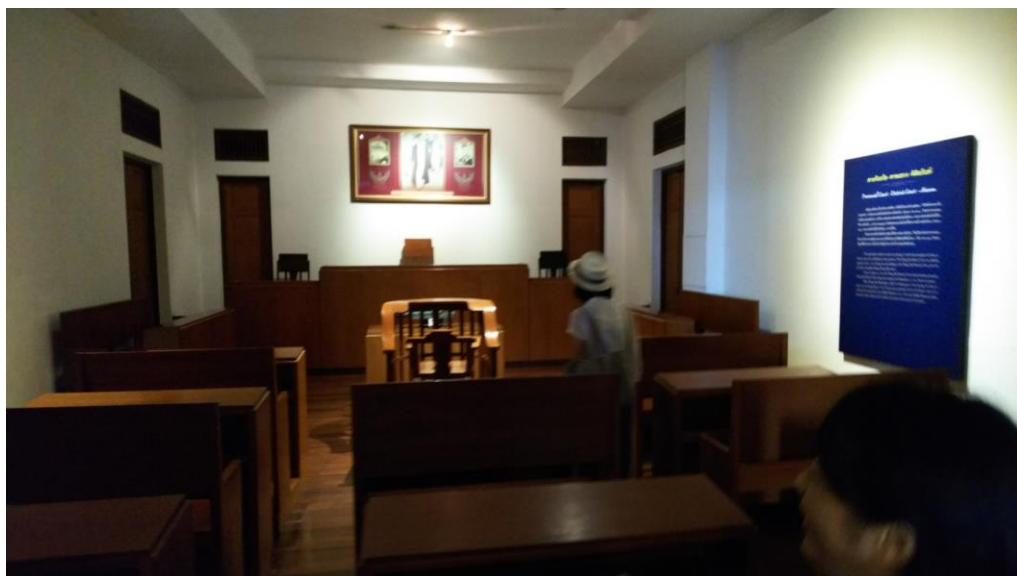
これはタイの舞踊で使用している爪です。
実際の動きを学芸員さんに教わりました。



ランナー民俗博物館 (Lanna Folklife Museum)

- ランナータイの生活と文化を紹介している博物館。
- 衣服、仏像、お供え物の木などの様々な資料が展示されています。





元々裁判所として使用していた場所で、
2階にその一室が存在していました。

ジオラマ展示が多く、生活の風景や
仏像に祈りをささげている様子など
を学びました。



ワット・ドイステープ (Wat Doi Suthep)

- ここに来ないとチェンマイに来たことにならないと言われています。
- ワットは寺を意味し、ドイプは山を意味します。
- ほとんどのものが金箔に覆われています。



タイの人は生まれた日の曜日を大切にしており、生まれた誕生日の曜日ごとに仏像があり、また干支の数え方も日本とは異なっています。左の写真は自分の干支のところに硬貨を貼りつけた石盤で、右は自分が生まれた曜日の仏像の前に置いてある容器の中に、油を注ぐための場所の写真です。





ドイステープからはチェンマイ全体を見渡すことが出来ました。
とても綺麗な景色です。

行きはケーブルカーで上に上りましたが、
帰りは306段の階段を下りました。
階段の横には水の神様ナーガが配置されて
いました。



Huaykeaw Waterfull

当初の予定にはなかった場所ですが、休息を目的に訪問しました。



3日目

担当：須田舞奈

日程

午前

- チェンマイ国立博物館（館内見学）

午後

- チェンマイ国立博物館（レクチャー）
- クロロットマーケット
- サタデーマーケット

チェンマイ国立博物館 (Chiangmai National Museum)



スコータイ時代の多くの陶器を所有している。
民芸品や金銀細工・仏像など多くの資料が収集・展示
されています。

他の博物館に資料が保管されていることが多く、
展示品はレプリカが多く使われています。

様々な年代や民族の資料が展示されており、
タイについて深く知ることが出来ました。





午後は、チェンマイ国立博物館とバンコク国立博物館の館長の講義がありました。現在のタイの博物館の状況やこの先如何していくかなど聞くことが出来ました。タイと日本では学芸員制度が違うことに驚きました。

動く博物館！なんとバスの中に博物館があります！地域の人により資料を見てもらうために、様々な場所やイベントに出向いているそうです。

動くならでの展示がされておりとても面白かったです。カードにアイパッドをかざすと資料が画面に浮き出てくる仕掛けにはとても驚きました。



ワロロットマーケット (Warorot Market)



ラーマ5世王時代（1868～1910）にチェンマイ出身の側室チャオ・ダララサミー妃の発案で作られた市場。地下1階地上3階の建物の中には約500店が軒を並べます。建物の外にも様々な店が並んでいます。

食料や衣類・伝統工芸品・日用品なども売られています。値段交渉次第では安く購入することもできます。日本ではあまり食べられない果物を購入することが出来ました！



サタデーマーケット



全長約1.5kmのウア・ラーイ通りが歩行者天国となり、多くの店がひしめき合っています。銀細工が有名で、銀細工専門の店もあります。

伝統工芸品や食べ物、雑貨など様々なものが売っていましたが、サソリなど、珍しい食べ物も購入することが出来ます。



(サソリは味はあまりなく、ただ殻が硬くてなかなかかみ砕けませんでした…)

4 日 目 担当：南谷 龍春

日 程

午前

- ・タイ・ルー知的学習センター

午後

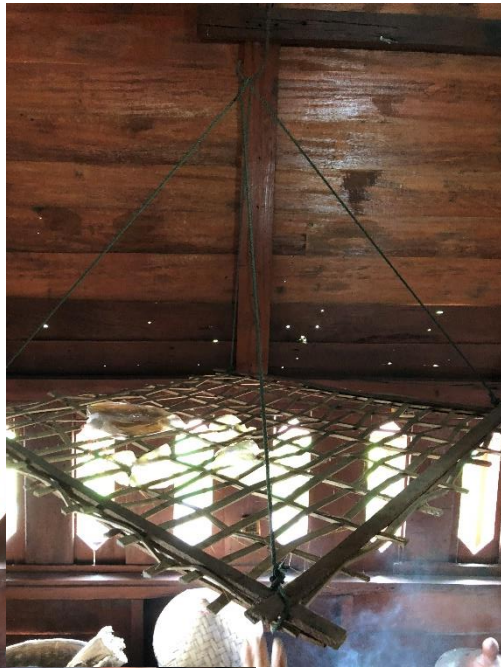
- ・ワット・ロンメン
- ・ワット・ゲートカーラム

タイ・ルー知的学習センター (Tai Lue Intellectual Learning Center “Baan Bai Boon”)



タイ・ルー民族は1932年に中国から移住してきた人々です。
移住の理由は商売のためで、牛や馬を引いてやってきました。





この学習センターでは彼らが使っていた日用品が展示してあり、タイ・ルー民族がどのような生活をしていたのか知ることが出来ます。





男性は右手首に、女性は左手首に交通安全と健康祈願のひもを結んでもらいました。



飲み水を入れておく容器。
水を冷やす効果もあります。

タイ・ルー料理



↑ カイパーム



↑ Kao-Kab



民族衣装の生地作り



タイ・ルーの歌と踊り



Folk Song Lanna

Say Lay Mao
มูฮ่าวมาจาร์กจาปัน

Say Lay Mao

Moo Hao Ma Jark Ja Pan

Shu Din Dan

San Suk Duang Jai

Baan Luang Nue

Chur Pao Kon Tai

Dan Lanna Thai

Moung Chiang Mai Suk Jai Jing Aery

Mung sare Mung Sare

Sare Mung Ta Lum Tum Mung

Mung sare Mung Sare

Sare Mung Ta Lum Tum Mung



Tai Lue Intellectual Learning Center (Baan Bai Boon)

ศูนย์การเรียนรู้ภูมิปัญญาไทยไตลื้อ บ้านใบบุญ





ワット・ロンメン (Wat Rong Meng)



タイではお寺に博物館（宝物庫？）がある所もあります。住民の方がお寺に寄贈したものを保管しているそうです。日用品から仏像まで様々なものが置かれていました。

今まで見たことのないタイプの博物館で、驚くこともありました。良い経験になりました。ジャンル問わずに置かれていたので、生活文化や伝統・宗教など幅広い範囲の知識を得ることが出来ました。



ワット・ゲートカーラム (Wat Ket Karam)



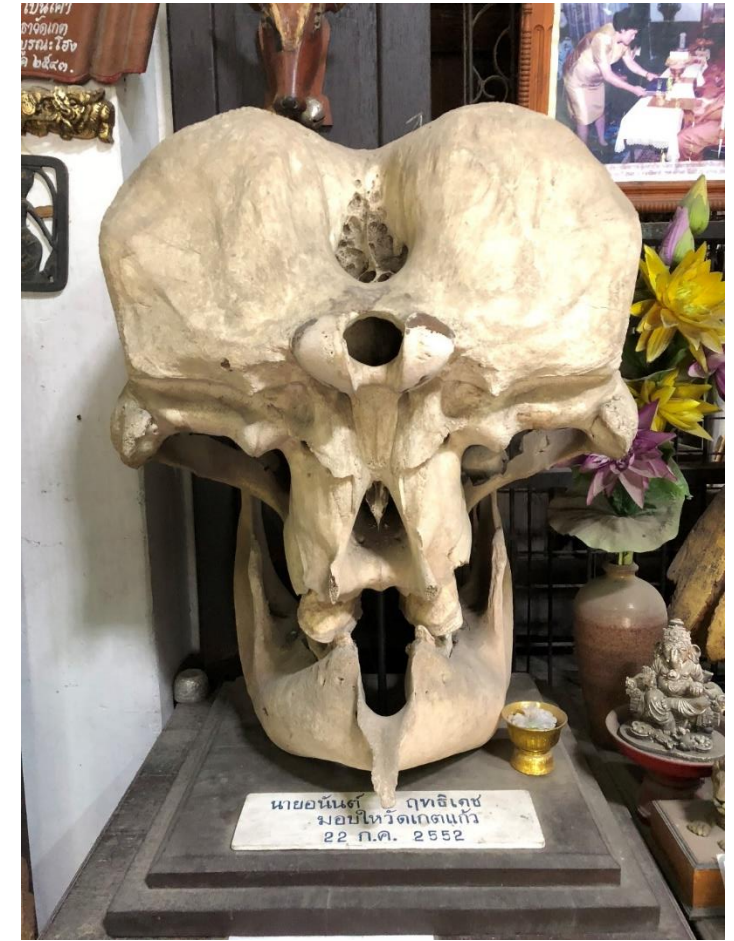
この博物館にはタイの歴史を感じるものがたくさんあります。

23年前に作られた博物館で、地域の人々が寄贈した日用品などが展示してあります。





タイや他の国の紙幣、硬貨や写真、
様々な品から象の骨まで展示して
ある。



博物館の管理は地域の人々のボランティアで
行われている。

5 日目 担当：川村 壱征

日程

午前

- ・ 山岳民族の観光村（バーントンルアン）見学

午後

- ・ 仏法センター到着
- ・ 研修生用の芋を植える
- ・ 僧侶の講話

バートンルアン環境農村

(Baan Tong Luang Eco-agricultural Village)

ラフやモン、リスなどの山岳民族が観光村で住んでいる。彼らは昼にバスにのってこの観光村に来て生活して、夜には自分達の村に帰ります。

(カレン族だけはタイ国籍を持っていないためこの場所から出ることが出来ず、ここで生活している)

この観光村は観光名所として人気で日本からの観光客も多いらしい。



異なる民族が同じ空間で過ごしているということに違和感を感じました。
彼らは写真をとられるのも仕事と思っているのかカメラを向けられてもまったく嫌な顔をしませんでした。



プリークウィウェーク仏法センター (Plekwiwek Dhamma Center)

ターニー僧侶の活動によって建てられた仏法センターはタイにおける新しい形の宗教施設で、明確に寺院と区分されています。ターニー僧侶他、沙弥が20人ほど生活していました。地域の人々が集まる場所としても使われているようです。ここには一般向けに積徳キャンプが開催されており、そのためか宿泊場所が多くありました。



ついですぐにサツマイモ植えの手伝いをしました。
ここの沙弥たちは昼過ぎまで学校に行き、帰ってきてからは農業を行ったり
建物を作るなど、様々な技術を学ぶそうです。



瞑想の仕方も教えてもらい実際にやってみました。瞑想は夜（18時半くらい）から行われました。

その後、僧侶から講話してもらったり沙弥たちと話すことでただ見ているだけではわからないことを知ることが出来ました。



6 日目 担当：川村 壱征

日程

午前

- ・落花生農園に行き僧侶と一緒にお手伝い
- ・ストウパー（仏塔）を見て回る

午後

- ・レクリエーションをして沙弥達と交流
- ・僧侶の講話
- ・瞑想の体験

地域の人の落花生の収穫を手伝いに行きました。
植ええや収穫など、人手が多くいる時期には親戚同士や地域の人が集まって協力して作業を行うそうです。その際に、お礼としてご飯やお菓子などをふるまうそうです。



チェンマイはこのタイプの車が多かったです。
途中からこの車に乗り換えて移動しましたが、なかなかスリル満点で面白かったです。



仏塔・寺院巡り

仏法センター付近にある仏塔や寺院を訪れました。



交流会

沙弥が学校から帰ってきた後、私たちが様々な出し物を行いました。
盆踊りや、よさこい、マジックショーを行いました。
中でもマジックショーは大盛況でした。



7日目

担当：横地健吾

日程

午前

- ・ タイ・ミャンマー国境朝市
- ・ Wat Fa Wiang Inn
- ・ 機織工房
- ・ 仏法センターへ帰る

午後

- ・ 仏法センターからチェンマイへ移動
- ・ RESORT AURORA カフェ
- ・ チェンマイ到着



タイ・ミャンマー国境朝市

- ・タイとミャンマーの国境に位置するタイヤイの村の朝市
- ・揚げパンやフライドチキン、ソーセージや魚のフライなどが売っており、食べ歩きを楽しみました。



ワット・ファー・ウィアン・イン (Wat Fa Wiang Inn)

- ・タイ・ミャンマーの国境をまたいで建っている寺
- ・タイ側に仏像や黄金色の塔があり、ミャンマー側に大きな赤い寺院があります。
タイ側のエリアには他に講堂、鐘楼、僧坊などもあります。
 - ⇒元々タイに立っていた建物だが、ビルマ(現ミャンマー)が攻めてきて、寺院の半分が占領されたため



機織工房



- 日本からも支援を受けている機織工房
- 作業は全て女性が行っています



8日目

担当：横地健吾

日程

午前

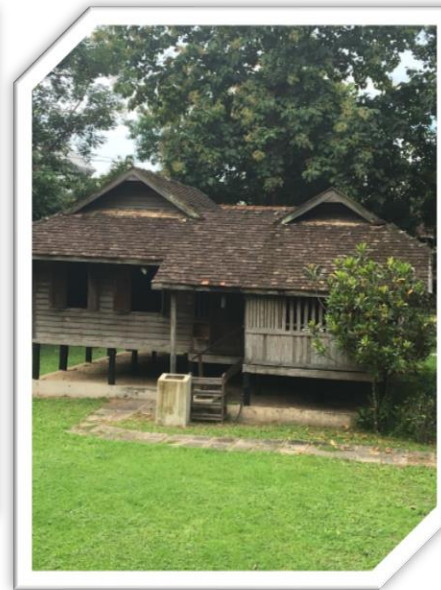
- ・ チェンマイ大学伝統家屋博物館
- ・ チェンマイ大学サナン教授による北タイ伝統行事に関するレクチャー
- ・ トウン作り体験
- ・ カイパーム作り体験

午後

- ・ バンコクへ飛行機で移動
- ・ バンコク到着（ホテルチェックイン）

チェンマイ大学伝統家屋博物館 (Lanna Traditional House Museum)

- ・ 「ランナー建築様式」の建物を見ることが出来る野外博物館
- ・ 建物は全部で12軒ほど並んでおり、様々なデザインのランナー建築様式の建物を見て楽しめます



チェンマイ大学伝統家屋博物館 (Lanna Traditional House Museum)

- ・ トウン作り体験

トウン
ソンクラーン（タイ正月）の際に作る
ジェディーサーイ（砂の仏塔）の上につける旗のようなもの

- ・ カイパーム作り体験

カイパーム
バナナの葉を器にして焼いた玉子焼き
タイ北部の伝統料理



9日目

担当：八木佑太

日程

午前

- ・ バンコク国立博物館

午後

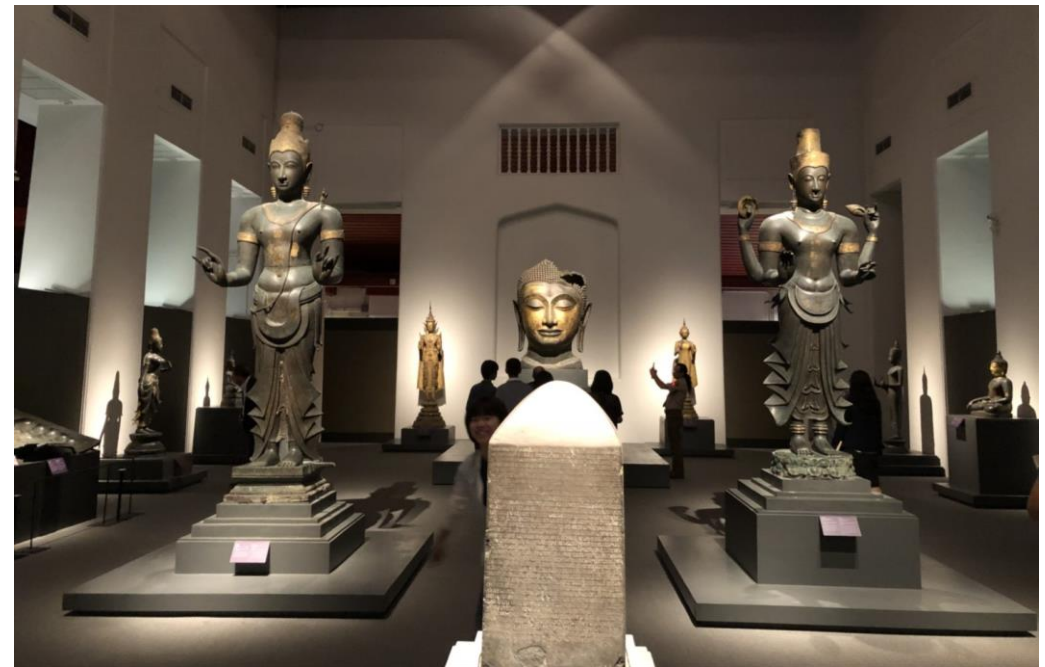
- ・ 王宮

バンコク国立博物館 (National Museum, Bangkok)



タイ中に数ある国立博物館の中心的存在。様々な年代、場所の展示品があります。1874年にラーマ5世によって創立された博物館です。

内部にはスコータイ王朝からチャックリー王朝にかけての考古学、芸術、民芸品が多く展示されています。写真中央に映るラームカムヘーン大王碑文は世界の記憶遺産に登録されています。





歴代の王様が乗った車が展示されており、豪華絢爛さがうかがえた。金で覆われた装飾は王をたたえるにふさわしいものでした。

偶然にも収蔵品とみられるものを搬入している場面に遭遇することができました。輸送法、搬入法などに不安をかなり覚えたが、おそらくレプリカであろうと信じたいです。



王宮



ほとんどの建物が金で統一されており、中心の建物はエメラルド寺院と呼ばれ、エメラルド仏と呼ばれる仏像が黄金の台座の上に安置されています。王宮内はどこも観光客が多く、人酔いを起こしそうになるほどの人でした。

10日目 担当：高良 健太

日程

午前

・スネークファーム



午後

・ムアンボーラン



国立毒蛇研究所 (SNAKE FARM)

スネークファームでは毒蛇の研究やワクチンの生産だけでなく観光客用に多くの種類の蛇を飼育・展示しています。



スネークファームでは、研究所というような照明や演出の仕方をしていました。

蛇と飼育員のスネークショーや蛇と記念撮影ができるなど、楽しみながら蛇について知ることが出来ました。

ムアンボーラン (Ancient City)



ムアンボーランはタイ各地の遺跡や文化遺産を敷地内をタイの国の形をしており、実際の場所と同じところに建物のレプリカがある。レプリカはとても大きく実際に中に入れる建物ばかりで驚きました。

遺跡や建物の他に文学や物語の舞台になった地域の場所にその物語のレプリカが置かれていました。



11日目 担当：高良 健太

日程

午前

- ・ アユタヤ日本人町の跡

午後

- ・ ワット ヤイ チャウ・モンコン
- ・ ワット マハタート
- ・ ワット・プラシーサンペット
- ・ エレファントビレッジ



アユタヤ日本人町の跡 (Japanese Settlement)

16世紀初め、御朱印船貿易に携わった日本人たちが築き、最盛期には2000～3000人以上もの日本人が住んでいました。日本の鎖国で18世紀初めにはこの街も消滅、敷地内には石碑や2007年に日タイ修交120周年記念館が設立され、友好の歴史を知ることができます。



ワット・ヤイ・チャイ・モンコン (Wat Yai Chai Mongkhon)

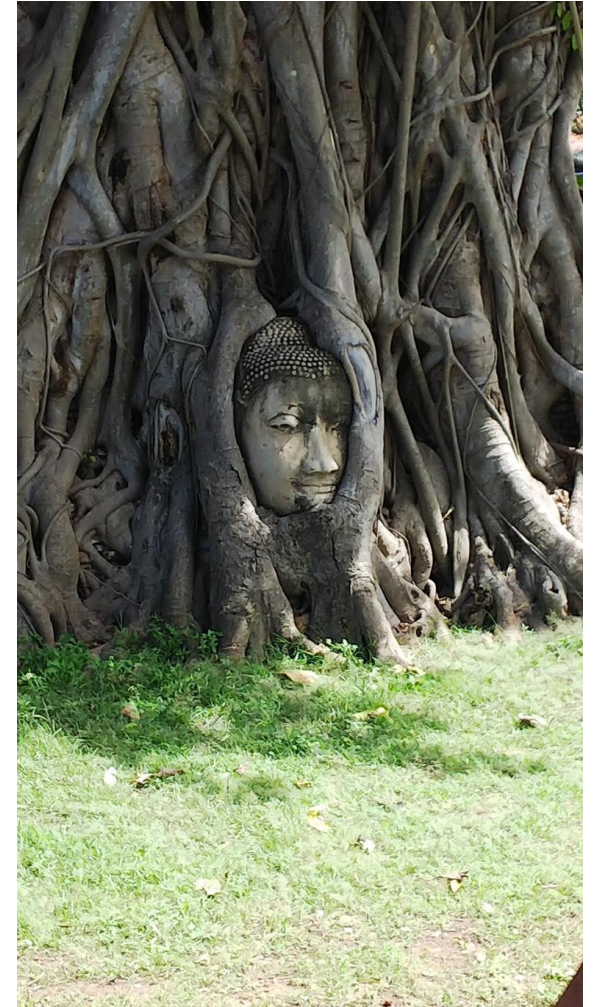
タイの世界遺産です。
高さ72メートルの仏塔が
あります。1592年のビルマ
（現ミャンマー）との戦いで
勝利した時に建てられた記念塔
です。



ワット・マハー・タート (Wat Maha That)

頭が樹木に埋まってしまった仏像が有名です。
石仏の頭部が根の部分に取り込まれた1本の菩提樹
がありました。

ビルマ軍が切り取り放置した仏像の頭部が、長い
年月の間に木の根に取り込まれ、木を切らない
限り取り出すことができなくなってしまったもので、
戦争の悲惨さを如実に物語っています。



ワット・プラ・シー・サンペット (Wat Phra Si Sanphet)

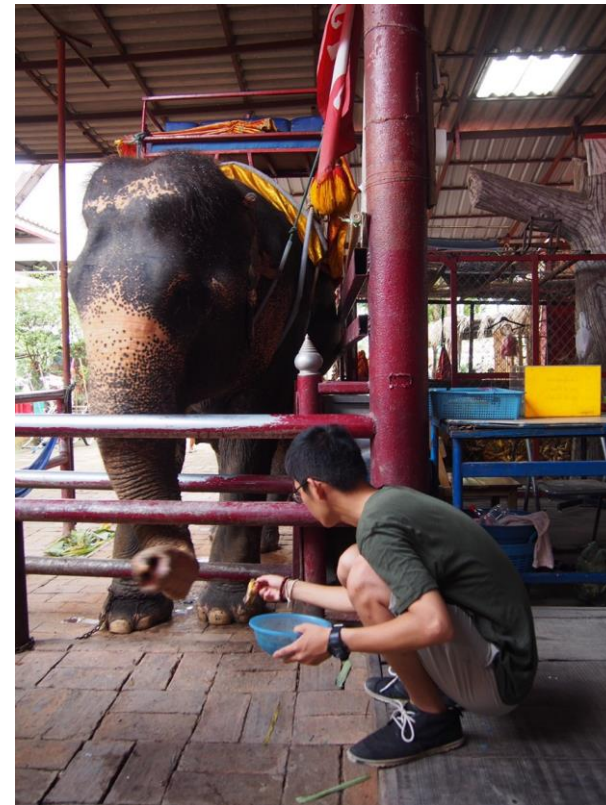
1448年に建立された王室専用寺院で、アユタヤ王宮内にあった最も重要な寺院です。

「プラ・シーサンペット」と呼ばれる高さ16メートル、171キロもの黄金の仏像が置かれていましたが、今は東西に並ぶ3基の仏塔のみが残り、寺院のシンボルとなっています。



エレファントビレッジ (Elephant village)

古くから貴重な労働力として使われてきた象に乗る体験ができます。



12日目 担当：保科柚季

日程

午前

- ・ シリントーン人類学センター

午後

- ・ シリラート法医学センター
- ・ チャイナタウン
- ・ アジアティーク

シリントーン文化人類学センター

(Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre)

マハーチャクリーシリントーン王女の誕生日を記念して1991年に設立した非営利学術組織です。

人類学的知識の普及、人類学とその関連分野の新しい研究開発、人類学的資料の収集・集積を通して学術研究を推進することも目的としています。

シリントーン文化人類学センター

(Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre)

- Sirindhorn Biography Room
シリントーン王女にまつわる資料や
研究の成果などを展示しています
- Pottery Room
タイで見つかった
土器や焼き物が展示
されています



シリントーン文化人類学センター

(Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre)

- Library

約10万冊を貯蔵しており一般の人でも無料で利用できます。

人類学に関する書籍だけでなく、葬式本と呼ばれる亡くなった際に出される自伝のような本も収蔵されていました。



シリントーン文化人類学センター

(Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre)

- ・ SACの活動

主に民族問題について保護・理解のための活動を行っています。
大学でのレクチャーや政府との協力など、活動は幅広いで行われています。



シリラート病院法医学博物館 (Siriraj Museum)

タイ最古の病院に併設された博物館
犯罪や事故で鑑定が必要だった遺体、奇形児、寄生虫や菌類、
人体の標本など5つのテーマに分かれて展示しています

タイ現代解剖学の父、コンドン教授の研究室も展示室として
公開されています。

チャオプラヤ川を船に乗って移動



チャイナタウン (China Town)

ヤワラートとも呼ばれるチャオプラヤ川周辺に
栄えるトンブリー地区の中でも人気のエリア

金製品を扱うお店が多くあります。
市場では中華食材が並んでいました。



アジアティーク (ASIATIQUE)

屋外にお土産屋さんが並び、レストラン
遊園地もあるアウトレットのような施設です



アジアティーク (ASIATIQUE)

レストランで最後のタイ料理を楽しみました



13日目 担当：保科柚季

日程

午前

- ・ 中部国際空港に到着

帰宅 🏠



くっ、食われるう



ありがとうございました！